

尺八サロンコンサート Vol.6

—桜花風籟—

一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク (JSPN) インフォメーション

第10回 尺八奏法講座 —プロから学ぼう尺八奏法—

日時 2023年11月16日(木) 受付開始 18:30/開講 19:00/終了予定 21:00
講師 田辺頌山
会場 都内スタジオ予定

第4回 定期公演「SCALE EXHIBITION」—尺八音楽にみる音階の多様性—

日時 2023年12月13日(水) 開場 18:30/開演 19:00
会場 すみだトリフォニー 小ホール

お申込み/お問い合わせ

一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク (JSPN) 事務局
公式ホームページ <https://www.jspn.org/>
Eメール jspn.sec@gmail.com

- 主催：一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク (JSPN)
- サロンコンサート Vol.6《プロジェクトチーム》
小濱明人、川村葵山、松本宏平、長谷川将山
- チラシデザイン：澤本捨史

■ プログラム ■

1. 《長谷川将山+吉越瑛山》

都山流本曲「^{はるかぜ}春風」(初代中尾都山 作曲)

2. 《竹井誠+杵家七三》

^{じょうきさお}篠に棹さす・・・ (川崎絵都夫 作曲)

3. 《Ensemble 紫音～Shion～》

四季より「春」(アントニオ・ヴィヴァルディ 作曲)
イパネマの娘 (アントニオ・カルロス・ジョビン 作曲)
Precious Pieces (松浪千紫 作曲)
Libertango (アストル・ピアソラ 作曲)

—休憩—

4. 《竹井誠+杵家七三》

^{めいきょう}明鏡 (杵屋正邦 作曲)

5. 《長谷川将山+吉越瑛山》

2本のフルートのためのソナタ (G.P.テレマン 作曲)

6. 《SUIMEI -吹鳴-》

日本組曲より「桜下の舞～狼達の舞」(G.ホルスト 作曲/小林純 編曲)
六段の調 (八橋検校 作曲)
ルーマニア民俗舞曲 (B.バルトーク 作曲/山本菜摘 編曲)

2023年5月16日(火) 開場 18:30 開演 19:00
日暮里サニーホール コンサートサロン

都山流本曲「春風」（はるかぜ 初代中尾都山 作曲）
 一部 吉越瑛山(尺八)／二部 長谷川将山(尺八)

明治 37 年の作曲当初は「八千代の曲」とされていましたが、その後の明治 42 年に「春風」へと改題、改訂がなされました。

序、初段、二段、三段の構成になっており、和やかな雰囲気から徐々に軽快さを増し、春風ののどけさ、快さを表現しています。三段は、同年に作曲された「岩清水」の三段と楽譜上は同一ですが、テンポの違いによりそれぞれ異なる味わいを持っています。(吉越瑛山)

箏に棹さす・・・（じょう さお 川崎絵都夫 作曲）
 竹井誠(尺八・笛)／杵家七三(三味線)

2003 年杵家七三委嘱。夏目漱石の「草枕」より・・・「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい」

「情」を箏笛の「箏」、「棹」を三味線の「棹」と読み替えて、夫婦や人間関係において現代でも切実な、義理人情と合理主義の板挟みを音楽で表現してみました。

本日は前半を尺八、後半から本来の箏笛に持ち替えて演奏致します。

《Ensemble 紫音～Shion～》
 瀏上ラファエル広志(尺八)／松浪千紫(箏)／朴賢娥(チェロ)

「四季」より「春」第 1 楽章 (A.ヴィヴァルディ 作曲)

ヴィヴァルディはバロック時代を代表する作曲家の一人であり、弦楽器のための作品を数多く残しました。「春」も原曲はヴァイオリン独奏、ヴァイオリン、ヴィオラと通奏低音(オルガン、チェロ)の編成で作られた曲ですが、本日は独自のアレンジで原曲とは違う音色が味わえます。

イパネマの娘 (A.C.ジョビン 作曲)

世界中で一番よく知られているブラジル音楽の一曲です。ブラジルの伝統音楽であるサンバやショーロを根底に持ちながら、フランス印象音楽やジャズの要素も取り入れたボサノヴァという歌曲のジャンルです。歌詞では「誰よりも魅力溢れる」少女への憧れを、どこか懐かしくロマンティックに歌っています。

Precious Pieces (松浪千紫 作曲)

夏の木漏れ日が降り注ぐ中、岩戸川沿いの溪谷を岩をつたい歩き進めていく。せせらぎの音、少しひんやりとした空気が肌に心地良い。ふいに立ち止まり、自らの心の声に耳を澄ますと、まるで神に導かれるかのように思いは巡り、慈しみ深い気持ちで満たされる。1st アルバム「Precious Pieces」(2021)収録曲。

リベルタンゴ (A.ピアソラ 作曲)

スペイン語の libertad(自由)とアルゼンチン音楽の tango が合わさった題目です。その言葉通り、従来のタンゴ形式に囚われない自由さがあり、ノリの良い伴奏で始まり、次第に歌い始めるように美しい主旋律が登場します。今回はそれぞれの楽器の良さを活かす即興的なフレーズ入りの編曲で演奏します。

明鏡（めいきょう 杵屋正邦 作曲）
 竹井誠(尺八)／杵家七三(三味線)

尺八本曲、就 中、琴古流系の演奏に思いを致すとき、その間合いや呼吸法には、長唄を含む三味線音楽のそれと極めて相似するものがあり、そこに新しい組み合わせの可能性を感取することが出来ます。

「明鏡」は、作曲者のそのような受け止め方の適否を具体的に知る拠り所の一つとして書かれた作品です。

2本のフルートのためのソナタ (G.P.テレマン 作曲)
 第一尺八 長谷川将山／第二尺八 吉越瑛山

後期バロック音楽を代表するドイツの作曲家 G.P.テレマン(1681-1767)は、二つの旋律楽器のためのデュオソナタを数曲残しており、本日は一連の作品群から「通奏低音を伴わないソナタ集第一番(TWV40:102)」を尺八二重奏でお届けします。

「緩－急－緩－急」が交互に現れる所謂「教会ソナタ」の形式で書かれた全四楽章構成で、上行音型・下行音型などテレマンらしい躍動感溢れる特徴的なモチーフが展開されます。

今回、記譜を実音(D-dur)で演奏するにあたり、第一尺八は一尺八寸(D)管を、第二尺八は一尺六寸(E)管を用いています。(※いずれも五孔尺八)

この方法では、各管の最低音や「Dを開始音とするイオニア旋法」を演奏する際の運指が異なりますが、曲中の最低音(1点D)を旋律の入れ替えて補完しながら、音色やトリル機能の差異を出すことにより、管を違った効果を充分に発揮しています。(長谷川将山)

《SUIMEI -吹鳴-》
 大森健一(チェロ)／大賀悠司(尺八)／山本菜摘(作曲・ピアノ)

『日本組曲』より V. 桜下の舞 VI. 狼達の踊り (G.ホルスト 作曲／小林純 編曲)

舞踊家・伊藤道郎の作曲依頼により、「惑星」執筆途中の 1915 年に作曲されました。旋律のモチーフには様々な日本の民謡が用いられており、伊藤の口からホルストが採譜したと言われています。JSPN 所属の尺八奏者・作曲家の小林純氏による編曲版をお届けいたします。

六段之調 (八橋検校 作曲)

日本の箏曲を代表する楽曲です。今回の合奏では、尺八は竹友社発行の琴古流「曙六段」の譜を、ピアノは全音ピアノピースより「六段」の譜を、チェロは十文字楽器店発行のバイオリンマンドリン山田流箏曲楽譜より「替手六段の調」の譜をチェロ用に再アレンジしたものそれぞれ用いた上で、合奏に矛盾の生じないよう整曲を施しました。

ルーマニア民俗舞曲 (B.バルトーク 作曲／山本菜摘 編曲)

I. 棒踊り II. 帯踊り III. 足踏み踊り IV. プチュムの踊り V. ルーマニア風ポルカ VI. 速い踊り

私は東ヨーロッパに、少し重たいような、鮮やかな中にも暗さや翳りがあるようなイメージを持っています。その雰囲気、色合いが、この編成にしっくりくるかもと編曲が決まったときワクワクしました。尺八の息の音を多く含む独特な音色。チェロの艶やかで深みがある音色。この曲ではさらに様々な奏法を取り入れ、普段聴くことのない「音色の絡み合い」も意識しています。3 者がどのように絡み合うか、ぜひ 1 曲 1 曲注目してお聴きください。(初演時・編曲者コメントより)